

解説 アイヌ民話を「再話」するということ

アイヌ民話撰集企画編集委員会

アイヌのお話を数話ずつ収録して毎年刊行する『アイヌ民話撰集』シリーズも四巻目になりました。各巻とも地域や口承文学ジャンル、主人公の性別や話の内容、長さなどなるべく多様なものになるよう心がけています。

本シリーズは「翻訳」ではなく「再話」です。アイヌ語にはアイヌ語の文体があり、ただ翻訳しても読みやすい日本語にはなりません。また、ページ数の関係上どうしても省略せざるをえない部分や、逆に他の伝承で補完しなくてはならない部分があります。といつても、新たな要素やストーリーの改変などはせず、もとの資料に沿ったかたちで読みやすい文になっています。

この本には、執筆者である寮美千子さん、イラストを担当する鈴木隆一さん、レイアウトの松永洋介さん、それにアイヌ文化や児童文学の研究者など複数の人間が関わっています。まずは皆で集まって全体の方向性を決め、お話を選び、細部や文化的背景について確認しま

す。元の資料にはなるべくアイヌ語があるものを選んで原文を確認します。書き手が内容を理解していなければ文章は書けませんし、具体的な情報がないと挿絵も描けません。服の模様には伝承地のものを選びますし、民具の形や大きさ、家の並び方、杖のつき方、登場人物の仕草など何ごとにも根拠や資料が必要です。熊と戦って気絶した主人公サマイエクルが神の娘に水を飲ませてもらう場面で使われるのはイタンキ「お椀」でしょうか、それともピサク「柄杓」でしょうか。もとの資料にはないけれど、自然なのは柄杓ではないでしょうか。そういったことを一つ一つ検討します。関係者が集まるのは年に二回。あとは電子メールや電話でやりとりをします。イラストの修正が最後まで入るので、鈴木さんはぎりぎりまで大忙しです。

「女に化けた勇者ポイヤンベ」は英雄ポイヤンベ（地域によつてはポイヤウンベともいいます）が、女装して敵を

倒すお話です。空を飛び、剣をふるい、敵をやつつける少々荒っぽいお話ですが、何となくコミカルな要素もあります。

「狐にされた性悪男」は「チャランケ」（談判）に関するお話です。嘘のチャランケをふつかけたほうが言い負かされてしまう、という勧善懲悪ストーリーです。物事の解決には人々の証言が大切だというアイヌの考え方がよくわかります。このお話に登場するトウスレブニ「占い棒」については、実はあまりよく分かっていません。挿絵は断片的な情報をつなぎあわせた結果です。

「キノコが生えた男の子」の魔払いの様子には原文ではよくわからない部分があります。現在では伝わっていない儀礼なのかもしれませんが、N・G・マンロー氏が「Ainu Creed and Cult」で報告しているものと関係があるだろうと判断し、その写真を参考にしています。

「季節はずれの蝉の声」は地震や嵐で崩れた岩石や倒木によって川がせき止められてできた「天然ダム」が決壊して起こる「山津波」の話です。類話がたくさん採録されていますが、今回取り上げたのは夏に起こった山津波で村が全滅し生き残ったおばあさんの話です。人々は

夏のセミの声を聞きたびに亡くなった人々を思い出して悼むのです。

今回は星に関するお話を二つ採録しました。「星になったサマイエクル」は北斗七星がサマイエクルの姿だという話ですが、結末が今ひとつよく分かりません。星に関するお話は他のお話と違って結末が大団円にならないのかもしれませんが。「群れ星になった乙女たち」はよく知られた話です。今回は旭川市の栗山国四郎氏の伝承をもとにしましたが、他にも新ひだか町の葛野辰次郎氏の伝承などが知られています。こちらは『神の語り 神互いに話し合う』（葛野辰次郎著 オホーツク文化資料館刊 一九八三年）に掲載されています。

アイヌ民族の伝承は各地の人々が口頭で伝えてきたものです。各地によく似た伝承があるとしても、実際には少しずつ異なっています。「どれが正しい」ということはありません。全て正しいのです。「どの伝承が古くてどの伝承が新しいのか」も、研究者や外の立場の人々の感想や興味であつて、それを語り伝えている人々にとつて大切なのは「自分が聞いたとおりに語る」ということなのです。

（文・舟菊逸治）

出典 物語を語ってくれた人

この本にのっている物語はみな、アイヌのおじいさんやおばあさんが、語ったり、書きのこしてくれたものです。それを元に、あたらしく、わかりやすく書き直しました。次の本に、元のお話が、アイヌ語と日本語とで、のっています。

女に化けた勇者ポイヤンベ

砂沢クラさん（一八九七年～一九九〇年）旭川（北海道）

浅井亨ほか編『英雄の物語』（財団法人アイヌ無形文化伝承保存会、一九八二年）所収 浅井亨編「砂沢クラさんのユーカラ、A～D」

太田満・井筒勝信『平成一六年度アイヌ語ラジオ講座 第四期』（公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、二〇〇五年）所収 「ユカル（1）～（5）」

狐にされた性悪男

平賀サダモさん（一八九五年～一九七二年）日高（北海道）

萱野茂『萱野茂のアイヌ神話集成 第五巻』（ビクターエンタテイメント、一九九八年）所収 「罰当りシリマオツテ」

国立大学法人千葉大学『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第二次（北海道沙流郡平取町）調査報告書 第二巻』（国立大学法人千葉大学、二〇一五年）所収 「シリマオツテ」

キノコが生えた男の子

平賀エテノアさん（一八八〇年～一九六〇年）日高（北海道）

久保寺逸彦編『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』（岩波書店、一九七七年）所収 「神謡88 人間の

少年の自叙」

星になったサマイエクル

栗山国四郎さん（一八八二年～一九五六年）旭川（北海道）

末岡外美夫『アイヌの星』（旭川振興公社、一九七九年）所収 「サマエンノチウ」

末岡外美夫『人間達（アイヌタリ）のみた星座と伝承』（私家版、二〇〇九年）所収 「サマエン・ノチウ」

群れ星になった乙女たち

栗山国四郎さん（一八八二年～一九五六年）旭川（北海道）

末岡外美夫『アイヌの星』（旭川振興公社、一九七九年）所収 「アルワンノチウ」

末岡外美夫『人間達（アイヌタリ）のみた星座と伝承』（私家版、二〇〇九年）所収 「トランネ・ノチウ」

季節はずれの蝉の声

二谷国松さん（一八八八年～一九六〇年）平取（北海道）

久保寺逸彦編『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』（岩波書店、一九七七年）所収 「神謡35 蝉を教

え戒める神謡」

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ民話撰集企画編集委員会 企画委員

丹菊逸治 (委員長、北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授)

阿部かおり (委員、北海道立図書館利用サービス部資料課主任)

押野朱美 (委員、一般財団法人アイヌ民族博物館伝承課学芸員)

関根健司 (委員、平取町二風谷アイヌ文化博物館学芸員補)

高橋靖以 (委員、北海道大学アイヌ・先住民研究センター研究員)

イソイタク4

アイヌの昔話 キノコが生えた男の子

発行日 平成29 (2017) 年3月1日

企画・監修 アイヌ民話撰集企画編集委員会

語り 砂沢クラ・平賀サダモ・平賀エテノア・栗山国四郎・二谷国松

文・編集 寮美千子

絵 鈴木隆一

装丁 松永洋介

発行 公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7

TEL 011-271-4171 FAX 011-271-4181

URL <http://www.frpac.or.jp/> E-mail ainu@frpac.or.jp

印刷 株式会社 北海道機関紙印刷所